



～最近の豪ドル/円とオーストラリア株式市場の動向について～

- 最近の豪ドルは、円に対して堅調に推移しております。オーストラリアは、日本を含む他の先進国と比べ金利水準が高く、経済動向も安定していることが背景にあると思われます。政策金利は、昨年4回にわたって引き下げられ現在3%（図表3）ですが、景気状況次第で更なる金融緩和が可能であるとみられています。また、景気刺激のため、財政支出を増やしてきたことから、財政赤字の状態ではありますが、オーストラリア政府の見通しでは、2013年度以降の財政は黒字化する見込みです。財政の健全化や金融政策対応余地に伴う経済成長期待が、今後も豪ドル高の要因として働く可能性が高いと考えられます。
- 一方、外部要因では、アメリカ・中国・日本で政治体制が固まり、各国の政局の安定とともに経済面でのテコ入れが期待されています。中でも輸出先として密接な中国は、足元の経済指標を見ても、景気持ち直し傾向が見て取れますし、2013年に入り、新体制下での景気対策が本格化するとみられています。中国景気の回復基調などの外部材料の好転を受けて、オーストラリア中央銀行(RBA)の利下げ観測も当面は後退すると見込まれ、豪ドルの下振れリスクも軽減されていくものと見ております。アベノミクスへの期待感から米ドル/円が円安傾向にある中、豪ドルも円に対して緩やかに上昇する展開が見込まれます。（図表1、2）
- オーストラリア株式市場は、昨年末から上海総合指数と同様に上昇してきております（図表1,2）。これには、前述の主要各国の強力な金融・経済政策の推進による景気回復への期待感から投資家のリスク許容度が拡大したこと、日本・アメリカなど先進各国の金融緩和政策による投資資金の増加などの要因があると思われます。今後については、内需が堅調であること、重要な輸出先である中国景気を持ち直し観測などを背景として、オーストラリア経済のファンダメンタルズが安定して推移するとの期待感があることから、堅調に推移するものと見ております。

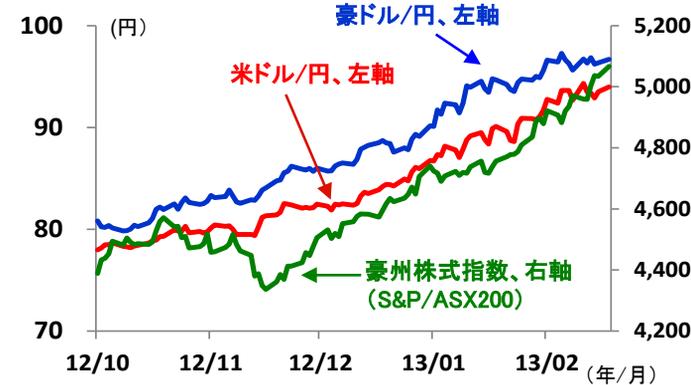
【図表1 豪ドル・米ドル/円と中国株式指数の推移】

(2012/10/1～2013/2/18、上海総合指数は2013/2/8まで、日次)



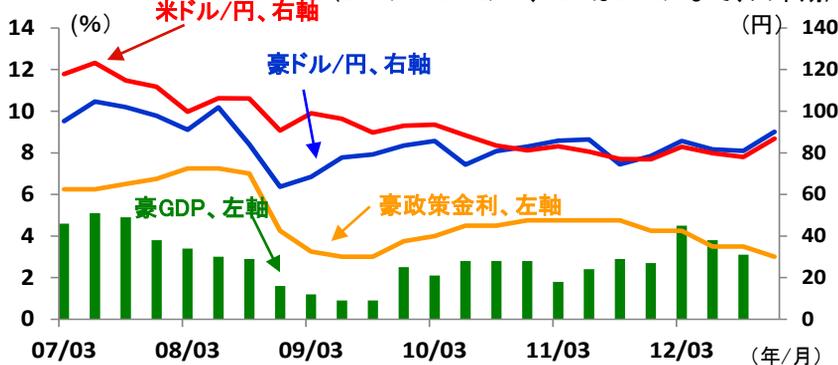
【図表2 豪ドル・米ドル/円とオーストラリア株式指数の推移】

(2012/10/1～2013/2/18、日次)



【図表3 オーストラリアの政策金利・GDPと豪ドル・米ドル/円の推移】

(2007/3～2012/12、GDPは2012/9まで、四半期)



(出所: 図表1～3はオーストラリア統計局、ブルームバーグのデータよりニッセイアセットマネジメントが作成)

当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。〈審査確認番号H24-TB93〉